

Schizophrenia

Spectrum and Other Psychotic Disorders

DSM-5

統合失調型（パーソナリティ）障害

Schizotypal (Personality) Disorder

統合失調型パーソナリティ障害は、パーソナリティ障害の章にある。しかし、この障害は統合失調症スペクトラムに含まれると考えられ、ICD-9やICD-10でも統合失調症関連の章で統合失調型障害が扱われている。

◇ 診断基準はDSM-IVと同一である。

◇ 上記の文は記載の重複部分を一部を省いている。DSM-5ではパーソナリティ障害について変更が数多く検討されたが間に合わず全く変更なく発表され、この障害の基準の記載がパーソナリティ障害に取り残される結果となった。扱いとしては統合失調症スペクトラムで扱うこととなり、いずれ改訂版では「統合失調型障害」がこの章に完全に含まれることになるだろう。

| 1

妄想性障害 Delusional Disorder

- A. 妄想が1ヶ月以上存在する。
- B. 統合失調症の基準Aを満たしたことがない。
注釈：もし幻覚があっても、それは目立ったものではなく、妄想の主題に関係したもの（例、虫に侵食される妄想に関連した、虫に侵食されている感覚）である。
- C. 妄想またはその発展の直接的影響以外に、機能は著しく障害されておらず、行動にも目立った奇妙さや風変わりさはない。
- D. 躁病あるいは大うつ病エピソードが妄想と同時に生じていたとしても、それらの期間の合計は妄想の持続期間と比べて短い。

E. 障害は、物質または他の医学的状態の直接的な生理学的作用の影響ではなく、他の身体醜形障害や強迫性障害といった他の精神病性障害でよりよく説明できない。

該当すれば特定せよ：

色情型 Erotomanic type：この亜型は、妄想の中心となる主題が、その個人と他の誰かが恋愛関係にあるというものであるときに適用される。

誇大型 Grandiose type：この亜型は、妄想の中心となる主題が、何かすごい（しかし認められていない）才能や洞察力を持っている、または何か重要な発明をしたなどと確信しているときに適用される。

嫉妬型 Jealous type：この亜型は、妄想の中心となる主題が、配偶者または交際相手易が不実であるというものであるときに適用される。

被害型 Persecutory type：この亜型は、妄想の中心となる主題が、その個人に対して陰謀を企てられている、悪戯をされている、スパイされている、追跡されている、毒や毒を入れられている、悪意ある犯罪にさらされている、責め苦にあっている、または長い間追跡され邪魔されているなどと信念を持っているときに適用される。

身体型 Somatic type：この亜型は、妄想の中心となる主題が、身体的な機能不全や感覚を含むときに適用される。

混合型 Mixed type：この亜型は、どの妄想の主題も優勢ではないもの。

特定不能型 Unspecified type：この亜型は優勢となる妄想的信念が明確に特定できないとき、あるいは特定の型に記述されていないときに適用される（例、誇大的な要素も誇大的な要素も含まない関係妄想）。

該当すれば特定せよ：

奇妙な内容のもの with bizarre content：明らかに受け入れがたく、了解可能なものでなく、通常の人生経験ではもたらされないだろう妄想だったとき、それは奇妙と判断される。

経過に対する特定用語は障害の期間が1年間を過ぎたときにのみ、そして経過の基準に矛盾が生じていないときにのみ用いる。

（基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略）

現在の重症度を特定せよ：

（基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略）

◇ “Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity” 参照

◇ DSM-IVにあった共有精神病（二人組精神病）はDSM-5には無い。家族などの強い関係のある妄想的な人の影響で妄想が生じた際、それが妄想性障害の基準に合致すれば妄想性障害と診断し、期間が1ヶ月未満であるなど妄想性障害の基準に合致しないのであれば、「他の特定の統合失調症スペクトラムと他の精神病性障害」の「妄想性障害を持つ人のパートナーの妄想症状 Delusional symptoms in partner of individual with delusional disorder」と診断する。

短期精神病性障害 Brief Psychotic Disorder

A. 以下の症状のうち1つ以上が存在する。

1. 妄想
2. 幻覚
3. 解体した会話（例、頻繁な脱線または滅裂）

4. ひどく解体した、または緊張病性の行動

注釈：文化的に容認された反応様式であれば、その症状を含めないこと。

- B. 障害のエピソードの持続期間は少なくとも1日以上1ヶ月未満で、最終的には病前の機能レベルにまで完全に回復すること。
- C. この障害は精神病性の症状を伴う大うつ病または双極性障害、あるいは他の統合失調症やカタトニアなどの精神病性障害ではうまく説明されず、物質（例：乱用薬物、投薬）または他の医学的状態の直接的な生理学的作用の影響によるものではない。

該当すれば特定せよ：

著明なストレス因子を伴うもの with marked stressor(s)（短期反応精神病 brief reactive psychosis）：症状が、その人の属する文化圏で同様の環境にあるほとんどすべての人にとって著しくストレスの強いような単独あるいは複数の出来事に反応して症状が出現した場合。

著明なストレス因子を伴わないもの without marked stressor(s)：症状が、その人の属する文化圏で同様の環境にあるほとんどすべての人にとって著しくストレスの強いような単独あるいは複数の出来事への反応ではなく症状が出現した場合。

産後発症のもの with postpartum onset：妊娠中または出産後4週間以内に発症したもの。

該当すれば特定せよ：

カタトニアを伴うもの with catatonia

「他の精神障害に関連するカタトニア」 Catatonia Associated With

Another Mental Disorder (Catatonia Specifier)”の基準を参照せよ。

◇ カタトニアは付随して診断する。例) 短期精神病性障害にカタトニアを伴えば、「短期精神病性障害」と「短期精神病性障害に関連したカタトニア」の2つと診断する。

現在の重症度を特定せよ：

（基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略）

◇ “Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity” 参照。

統合失調症様障害 Schizophreniform Disorder

- A. （基準は統合失調症の基準Aと同じ。ここでの記載は省略）
- B. 障害のエピソードが、1ヶ月以上6ヶ月未満持続する。その回復を待たず診断を下す場合は「暫定」としておくべきである。
- C. 1) 症状の急性期に大うつ病または躁病エピソードが同時に生じていないこと、または 2) 症状の急性期に気分エピソードが生じたのであればそれらは疾患の活動期および残遺期の持続期間の半分以下しか存在しないこと、のどちらかにより統合失調感情障害と、精神病性の症状を伴う大うつ病または双極性障害が除外されている。
- D. 障害は、物質（例：乱用薬物、投薬）または他の医学的状態の直接的な生理学的作用の影響によるものではない。

該当すれば特定せよ：

予後の良い特徴を伴うもの with good prognostic features：

この特定用語には以下の特徴のうち少なくとも2つが必要である。

- ・ 日常の行動または機能に最初の変化が認められてから 4 週間以内に顕著な精神病性の症状が出現
- ・ 錯乱または困惑
- ・ 病前の社会的、職業的機能が良好
- ・ 鈍麻した、または平板化した感情の欠如

予後の良い特徴を伴わないもの without good prognostic features :

この特定用語は上記の特徴が 2 つ以上存在しないときに適用される。

該当すれば特定せよ :

カタトニアを伴うもの with catatonia

「他の精神障害に関連するカタトニア」 Catatonia Associated With Another Mental Disorder (Catatonia Specifier) の基準を参照せよ。

◇ カタトニアは付随して診断する例) 「統合失調症様障害」と「統合失調症様障害に関連したカタトニア」の 2 つと診断。

現在の重症度を特定せよ :

(基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略)

◇ “Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity” 参照。

統合失調症 Schizophrenia

A. 以下のうち 2 つ以上、各々が 1 ヶ月間 (または治療が成功した際はより短い期間) ほとんどいつも存在する。これらのうち少なくともひとつは 1 か 2 か 3 である。

1. 妄想
2. 幻覚
3. 解体した会話 (例: 頻繁な脱線または滅裂)
4. ひどくまとまりのないまたは緊張病性の行動
5. 陰性症状 (例: 感情表出の減少や意欲欠如)

B. 障害の始まり以降の期間の大部分で、仕事、対人関係、自己管理などの面で 1 つ以上の機能の水準が病前に獲得していた水準より著しく低下している (あるいは、小児期や青年期の発症の場合、対人的、学業的または職業的な期待される水準に達することができずにいる)。

C. 障害の持続的な徴候が少なくとも 6 ヶ月間存在する。この 6 ヶ月間には、基準 A を満たす各症状 (すなわち、活動期の症状) は少なくとも 1 ヶ月 (または治療が成功した際はより短い期間) 存在しなければならないが、前駆期または残遺期の症状の存在する期間を含んでもよい。これらの前駆期または残遺期の期間では、障害の徴候は陰性症状のみか、もしくは基準 A にあげられた症状の 2 つまたはそれ以上が弱められた形 (例: 風変わりな信念、異常な知覚体験) で表されることがある。

D. 統合失調感情障害と、うつ病または双極性障害の精神病性の特徴を伴うものが以下の理由で除外されていること

(1) 活動期の症状と同時に、大うつ病または躁病のエピソードが発症していない

(2) 活動期の症状中に気分のエピソードが発症していた場合、それらは疾患の活動期および残遺期の持続期間の半分以下しか存在しない。

E. 障害は、物質 (例: 乱用薬物、投薬) または他の医学的状態の直接的な生理学的作用の影響によるものではない。

F. 自閉スペクトラム障害やコミュニケーション障害の小児期の既往歴があれば、統合失調症の追加診断は、統合失調症の必須症状に加えて顕著な幻覚や妄想が少なくとも1ヶ月（または治療が成功した際はより短い期間）存在する場合にのみ与えられる。

- ◇ DSM-IVでは、5つのA項目のうちどれでも2つを満たすことが求められていた。しかし、DSM-5になり、A項目のうち1つは妄想か幻覚か解体した会話のいずれかであることが定められた。
- ◇ DSM-IVでは特に奇異な妄想や、自己の行為を説明する幻聴または2つの声対話する幻聴であれば、それ1つでもA基準を満たすこととされていたが、DSM-5ではそれらの症状を特別扱いせずA項目2つ以上を条件とした。

合致すれば特定せよ：

以下の経過に対する特定用語は障害の期間が1年間を過ぎたときのみ、そして経過の基準に矛盾が生じていないときのみ用いる。

初回エピソード、現在急性エピソード First episode, currently in acute episode：症状と期間の診断基準の定義に合致する障害が初めての出現。**急性エピソード**は定義される症状の基準を完全に満たす時期である。

初回エピソード、現在部分寛解 First episode, currently in partial remission：部分寛解は、以前のエピソードの後に改善した状態が維持され、定義される障害の基準を部分的にだけ満たす時期である。

初回エピソード、現在完全寛解 First episode, currently in full remission：完全寛解は、以前のエピソードの後に改善した状態が維持され、障害特有の症状が何も無い時期である。

複数のエピソード、現在急性エピソード Multiple episode, currently in acute episode：最低で2回のエピソード（例：初回エピソード、寛解、そして最低1回の再燃）の後に定められる。

複数回のエピソード、現在部分寛解 Multiple episode, currently in partial remission

複数回のエピソード、現在完全寛解 Multiple episode, currently in full remission

持続性 Continuous：疾患経過の大半で、症状が障害の症状の診断基準を満たし、症状が基準を満たさない期間は全体の経過に比べて非常に短い。

特定不能 Unspecified

合致すれば特定せよ：

カタトニアを伴うもの with catatonia

「他の精神障害に関連するカタトニア」 ” Catatonia Associated With Another Mental Disorder (Catatonia Specifier)” の基準を参照せよ。

- ◇ カタトニアは付随して診断する。例) 統合失調症にカタトニアを伴えば、「統合失調症」と「統合失調症に関連したカタトニア」の2つと診断。

現在の重症度を特定せよ：

妄想・幻覚・解体した会話・異常な精神運動行動・陰性症状を含んだ基本的な精神病症状の量的な評価で重症度を評定する。これらそれぞれの症状を、現在の（最近の7日間のうち最も酷い）重症度を0点（その症状が無い）から4点（その症状が存在し、重症）の5段階の範囲で評価する。

補足：統合失調症は、この重症度の特定用語なしに診断することはできない。

- ◇ “Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity” 参照。
- ◇ DSM-IVにあった妄想型／解体型／緊張型／鑑別不能型／残遺型の亜型分類が削除された。代わりにディメンジョンとしてとらえる“Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity”で評価することとなった。
- ◇ DSM-IVでは、妄想だけであっても妄想内容が奇妙であれば妄想性障害ではなく統合失調症として扱われた。DSM-5では、妄想だけであれば妄想内容の奇妙さを問わず、妄想性障害と診断する。DSM-IVで統合失調症、DSM-5で妄想性障害と診断される境界線にある一群は「奇妙な内容のもの with bizarre content」の特定用語で扱われる。

統合失調感情障害 Schizoaffective Disorder

- A. 統合失調症の基準Aが同時に伴う大気分エピソード (major mood episode, 大うつ病または躁病) のが中断されない一続きの疾病期間。
注釈：大うつ病エピソードは必ず基準A 1：抑うつ気分を含まなければならない。
- B. その人生の疾病の期間の中で、大気分エピソード (大うつ病または躁病) 無く妄想か幻覚が2週間以上存在。
- C. 大気分エピソードを満たす症状が疾患の活動期および残遺期の合計の期間の半分以上存在。
- D. 障害は、物質 (例：乱用薬物、投薬) または他の医学的状態の直接的な生理学的作用の影響によるものではない。

どちらか特定せよ：

双極型 Bipolar type：この亜型は躁病エピソードがあったことがある場合に適用される。大うつ病エピソードも生じうる。

抑うつ型 Depressive type：この亜型は大うつ病エピソードのみが生じる場合に適用される。

該当すれば特定せよ：

カタトニアを伴うもの with catatonia

「他の精神障害に関連するカタトニア」” Catatonia Associated With Another Mental Disorder (Catatonia Specifier)” の基準を参照せよ。

- ◇ カタトニアは付随して診断する。例) 統合失調感情障害、双極型にカタトニアを伴えば、「統合失調感情障害、双極型」と「統合失調感情障害、双極型に関連したカタトニア」の2つと診断する。

経過に対する特定用語は障害の期間が1年間を過ぎたときにのみ、そして経過の基準に矛盾が生じていないときにのみ用いる。

(基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略)

現在の重症度を特定せよ：

(基準は統合失調症と同じ。ここでの記載は省略)

- ◇ “Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity” 参照。

他の精神障害に関連するカタトニア

Catatonia Associated With Another Mental Disorder (Catatonia Specifier)

A. 臨床象が以下の徴候うち3つ以上が優勢である。

1. 昏迷（すなわち、精神運動活動の欠如；環境に関係した活動が無い）
2. カタレプシー（すなわち、重力に反して保たれる受動的に与えられた姿勢）
3. 蠟屈症（すなわち、診る者が姿勢を動かそうとすることに対してわずかに、そして均一な抵抗）
4. 無言（すなわち、全くあるいはほんのわずかにしか言語的な反応が無い [失語症であることが判明していれば除外せよ]）
5. 拒絶（すなわち、指示や外的な刺激に対する、反抗または反応の欠如）
6. 姿勢保持（すなわち、重量に反した姿勢の自発的で能動的な保持）
7. 街奇症（すなわち、奇妙でおおげさな通常動作）
8. 常同症（すなわち、反復的で、異常に頻繁な、目的志向性ではない動き）
9. 焦燥、外的な刺激に影響されたものでないもの
10. しかめ面
11. 反響言語（すなわち、他者の話の模倣）
12. 反響動作（すなわち、他者の動作の模倣）

◇ カタトニアは大うつ病や統合失調症や双極性障害など、そしてその関連障害に付随して診断されることになった。例) 統合失調症にカタトニアを伴ったのであれば、「統合失調症」と「統合失調症に関連したカタトニア」の2つと診断。

この章には他に下記のもものが分類されている。

- Substance/Medication-Induced Psychotic Disorder
- Psychotic Disorder Due to Another Medical Condition
- Catatonic Disorder Due to Another Medical Condition
- Unspecified Catatonia
- Other Specified Schizophrenia Spectrum and Other Psychotic Disorder **他の特定の統合失調症スペクトラムと他の精神病性障害**
 - Persistent auditory hallucination
 - Delusions with significant overlapping mood episodes
 - Attenuated psychosis syndrome
 - Delusional symptoms in partner of individual with delusional disorder **妄想性障害を持つ人のパートナーの妄想症状**：人間関係のある状況の中で、妄想性障害の基準を完全に満たすとは限らない影響力の強いパートナーからの、妄想的な要素の影響で妄想的な内容の信念を抱く。
- Unspecified Schizophrenia Spectrum and Other Psychotic Disorder

Clinician-Rated Dimensions of Psychosis Symptom Severity (I-V)

対象となる個人に対するすべての情報に基づいて、あなたの臨床判断により、以下の徴候の有無と重症度の過去7日間について評価してください。

	領域	0	1	2	3	4	評点
I	幻覚	存在しない	うたがわしい (重症度か期間が病的と考えるには不十分)	存在するが軽度 (その声に、内容に従って行動するような影響力はほとんどない。その声に悩まされることはあまりない)	中等度に存在 (その声に応じるような影響力がいくらかある。あるいは、その声にいくらか悩まされている)	重度に存在 (その声に応じるような影響力が強い。あるいは、その声にひどく悩まされている)	
II	妄想	存在しない	うたがわしい (重症度か期間が病的と考えるには不十分)	存在するが軽度 (その妄想的な考えに、内容に従って行動するような影響力はほとんどない。その考えに悩まされることはあまりない)	中等度に存在 (その考えに従って行動するような影響力がいくらかある。あるいは、その考えにいくらか悩まされている)	重度に存在 (その考えに従って行動するような影響力が強い。あるいは、その考えにひどく悩まされている)	
III	解体した会話	存在しない	うたがわしい (重症度か期間が解体していると考えerには不十分)	存在するが軽度 (話を理解することがいくらか難しい)	中等度に存在 (話を理解することがしばしば難しい)	重度に存在 (話を理解することがほとんど不可能)	
IV	異常な精神運動行動	存在しない	うたがわしい (重症度か期間が異常な精神行動と考えるには不十分)	存在するが軽度 (異常な、または奇妙な運動行動やカタトニアがときおりある)	中等度に存在 (異常な、または奇妙な運動行動やカタトニアが頻繁にある)	重度に存在 (異常な、または奇妙な運動行動やカタトニアがほぼ常にある)	
V	陰性症状	存在しない	表情への表出、韻律(言葉の抑揚やリズムなど)、仕草、自発的行動の疑わしい程度の減少	軽度表情への表出、韻律(言葉の抑揚やリズムなど)、仕草、自発的行動の減少が存在するが軽度	軽度表情への表出、韻律(言葉の抑揚やリズムなど)、仕草、自発的行動の減少が存在し、中等度	軽度表情への表出、韻律(言葉の抑揚やリズムなど)、仕草、自発的行動の減少が存在し、重度	